

【アーティストサポート】を通して、アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

<2023年度年間サポート>

F.A Y.A T.I 井上 豊 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O 片山由美子
河村はるみ K.K 木村美明 M.K 小室秀夫 N.S 新貝康司 N.S M.S 関根一祿 A.D 土屋涼子
トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 N.N 中島 和 中野和枝 中村尚義 中村美穂 T.H N.H M.H
平山美由紀 藤野盾臣 細沼康子 M.H 松尾芳樹 松田 香 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M H.Y S.Y 渡部伸子
TDK株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルトハウス・ジャパン by 株式会社キタマ
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション
ライフプラン株式会社 Heart of the Earth株式会社
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社RINABO きづきアセット株式会社
株式会社青林堂 日本パデレフスキ協会淡路
(匿名希望 25名)

<舘野泉バースデープロジェクト>

Y.A 阿部将任・登美子 新井京子 池田光世 一柳吉子 A.I 遠藤一秀 大嶋早苗 大嶋浩美
大谷恵美子 S.O 奥田三華 小畑裕子 木全恵美子 久保春代 M.K 黒川智恵美 黒住彰子
斉藤久子 坂井和 佐々木暁子 菅原佳世 鈴木早苗 R.T 田口雅子 田邊英利子 土谷美保子
永作稔 中村恭子 中村康江 K.H 羽生賢次 林雄嗣・鈴子 福島晶子 堀田高秀 松田純子
三上美智恵 光永育 K.M 山家七恵 S.Y K.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子
舘野泉ファンクラブ東京 舘野泉ファンクラブ東北 タビオラの会 日本セヴラック協会 有限会社ムジカーザ
NPO法人 Mプロジェクト スオミ・ピアノ・スクール研究会
(匿名希望 20名)

<ショパン・ピリオド楽器プロジェクト>

S.O 北村真 トゥルーラブ真智子
(匿名希望 4名)

<ニュークラシックプロジェクト>

浅岡尚子 岩井陸雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜 篠崎啓史 I.S T.S
トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 T.N 長谷部 宏行 秦勝重 T.H 林 路郎 細沼康子 牧野佳那
松下泰之(マティビ) S.Y
(匿名希望 14名)

2023年12月20日現在 敬称略



ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの
詳細はこちらを
ご覧ください。



SYMFONICKÝ
ORCHESTR
HL.M. PRAHY
PRAGUE SYMPHONY ORCHESTRA



New Year Concert

Japan Tour 2024



プラハ交響楽団 ニューイヤー・コンサート

2024年 日本公演

1月9日(火) 19:00 東京芸術劇場 7:00p.m., Tue, January 9 at Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall
指揮:トマーシュ・ブラウネル Tomáš Brauner, Conductor

ドヴォルザーク: 「伝説」より 第3曲 ト短調 Op.59-3

A. Dvořák: Legends, No 3 in G minor, Op.59

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op.18 (ピアノ:牛田智大)

S. Rachmaninov: Piano Concerto No. 2 in C minor, Op.18 (Tomoharu Ushida, Piano)

- 第1楽章: モデラート 1st Mov.: Moderato
- 第2楽章: アダージョ・ソステヌート 2nd Mov.: Adagio sostenuto
- 第3楽章: アレグロ・スケルツァンド 3rd Mov.: Allegro scherzando

* * * * *

ドヴォルザーク: 交響曲第9番 ホ短調 Op.95 「新世界より」

A. Dvořák: Symphony No.9 in E minor, Op.95 "From the New World"

- 第1楽章: アダージョーアレグロ・モルト 1st Mov.: Adagio - Allegro molto
- 第2楽章: ラルゴ 2nd Mov.: Largo
- 第3楽章: スケルツォ、モルト・ヴィヴァーチェ 3rd Mov.: Scherzo. Molto vivace
- 第4楽章: アレグロ・コン・フオーコ 4th Mov.: Allegro con fuoco

1月11日(木) 19:00 サントリーホール 7:00p.m., Thu, January 11 at Suntory Hall
指揮:小林研一郎 Ken-ichiro Kobayashi, Conductor

スメタナ: 連作交響詩「わが祖国」

B. Smetana: Má Vlast (My Country)

- 第1曲: ヴィシェフラド I. Vyšehrad
- 第2曲: ヴルタヴァ (モルダウ) II. Vltava (Moldau)
- 第3曲: シャールカ III. Šárka
- 第4曲: ボヘミアの森と草原から IV. Z českých luhů a hájů (From Bohemia's Woods and Fields)
- 第5曲: ターボル V. Tábor
- 第6曲: ブラニーク VI. Blaník

* * * * *

1月14日(日) 19:15 サントリーホール 7:15p.m., Sun, January 14 at Suntory Hall
指揮:トマーシュ・ブラウネル Tomáš Brauner, Conductor

ドヴォルザーク: チェロ協奏曲 口短調 Op.104 (チェロ:岡本侑也)

A. Dvořák: Cello Concerto in B minor, Op.104 (Yuya Okamoto, Cello)

- 第1楽章: アレグロ 1st Mov.: Allegro
- 第2楽章: アダージョ・マ・ノン・トロポ 2nd Mov.: Adagio ma non troppo
- 第3楽章: アレグロ・モデラート 3rd Mov.: Allegro moderato

* * * * *

ドヴォルザーク: 交響曲第9番 ホ短調 Op.95 「新世界より」

A. Dvořák: Symphony No. 9 in E minor, Op.95 "From the New World"

- 第1楽章: アダージョーアレグロ・モルト 1st Mov.: Adagio - Allegro molto
- 第2楽章: ラルゴ 2nd Mov.: Largo
- 第3楽章: スケルツォ、モルト・ヴィヴァーチェ 3rd Mov.: Scherzo. Molto vivace
- 第4楽章: アレグロ・コン・フオーコ 4th Mov.: Allegro con fuoco

主催: ジャパン・アーツ

提携: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場(1/9公演)

後援: チェコ共和国大使館



チェコ共和国大使館

プラハ交響楽団 2024年日本公演

- 1月 5日(金) 札幌 札幌コンサートホール Kitara 主催: オフィス・ワン □☆
- 1月 7日(日) 福井 ハーモニーホールふくい 主催: 公益財団法人 福井県文化振興事業団 □☆
- 1月 8日(月・祝) 西宮 兵庫県立芸術文化センター 主催: 兵庫県、兵庫県立芸術文化センター □◎
- 1月 9日(火) 東京 東京芸術劇場 主催: ジャパン・アーツ □☆
- 1月11日(木) 東京 サントリーホール 主催: ジャパン・アーツ ■
- 1月12日(金) 川崎 ミューザ川崎シンフォニーホール 主催: 神奈川芸術協会 □◎☆
- 1月13日(土) いわき いわき芸術文化交流館アリオス 主催: いわき芸術文化交流館アリオス ■
- 1月14日(日) 東京 サントリーホール 主催: ジャパン・アーツ □◎

□トマーシュ・ブラウネル(指揮) ■小林研一郎(指揮) ☆牛田智大(ピアノ) ◎岡本侑也(チェロ)



トマーシュ・ブラウネル (首席指揮者)

Tomáš Brauner, Chief Conductor

チェコの指揮者トマーシュ・ブラウネルは、伝統を有するチェコ共和国最高峰のオーケストラであるプラハ交響楽団の首席指揮者を務めている。

プラハ国立音楽院にてオーボエと指揮を学んだ後、プラハ芸術アカデミーにてラドミル・エリシュカ教授に師事し、指揮科を卒業。また、ウィーン国立音楽大学にてウロシュ・ラヨビチ教授のもと、さらなる研鑽を積んだ。ディミトリ・ミトロプーロス国際指揮者コンクール、アテネ国際指揮者コンクールにて入賞。

2013-18年ピルゼン(プルゼニ)・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、2014-18年には、チェコ放送交響楽団の首席客演指揮者、2018-21年には、ボフスラフ・マルティヌー・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務めている。また、2017年には、優れた芸術的貢献に対し、プルゼニ市の芸術賞を受賞している。

オーケストラとオペラの指揮者として精力的に活動しており、ヨーロッパの主要な交響楽団と共演を重ねている。これまでに、客演指揮者として、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ミュンヘン交響楽団、ニュルンベルク交響楽団、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団、プラハ・フィルハーモニア、プラハ放送交響楽団他多数のオーケストラに招かれている。

オペラ指揮者としてのキャリアをプルゼニのJ.K.ティル劇場にてスタートし、モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》、ドヴォルザーク《ルサルカ》、プッチーニ《トゥーランドット》、グノー《ファウスト》等多数を指揮した。プラハ国立歌劇場には、ヴェルディ《オテロ》でデビュー。以後、プッチーニ《ラ・ボエーム》、《トスカ》、ヴェルディ《椿姫》、ピゼー《カルメン》、モーツァルト《魔笛》等を指揮している。

R.シュトラウス音楽祭では、「アルプス交響曲」をプラハ放送交響楽団と演奏する等、重要で国際的な音楽祭にも客演している。さらに、バート・キッシンゲン国際音楽祭、プラハの春国際音楽祭、ドヴォルザーク・プラハ国際音楽祭等に出演している。

また、「ボフスラフ・マルティヌー：チェロ作品全集」のダブリングハウス&グリム・レーベルでの録音は、2017年のクラシック・プラハ賞を受賞。ディスコグラフィーには、「カレル・フサ：プラハ1968年のための音楽」、「ドヴォルザーク：管弦楽のための狂詩曲集」、「チャイコフスキー：マンフレッド交響曲、交響詩『運命』」等の録音がある。

Tomáš Brauner,
Chief Conductor



小林 研一郎 (指揮)

Ken-ichiro Kobayashi, Conductor

東京藝術大学作曲科及び指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクールでの鮮烈な優勝を飾ったことを皮切りに世界的に活動の場を拡げ、現在も第一線で活躍を続けている。音楽に対する真摯な姿勢と情熱的な指揮ぶりは「炎のコバケン」の愛称で親しまれ、名実共に日本を代表する指揮者である。

これまでに、海外ではハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ネーデルラント・フィルハーモニー管弦楽団(25年間、常任客演指揮者を務める)、アーネム・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー放送交響楽団等、国内では NHK交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団等、名だたるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。この長年にわたる文化を通じた国際交流や社会貢献によって、ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、ハンガリー国大十字功労勲章(同国で最高位)等、国内では、旭日中綬章、文化庁長官表彰、恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。

作曲家としても数多くの作品を書き、1999年に日本・オランダ交流400年記念の委嘱作品、管弦楽曲「パッサカリア」を作曲、ネーデルラント・フィルハーモニー管弦楽団によって初演されると、聴衆から熱狂的な喝采を以て迎えられた。同作品はそれ以降も様々な機会に、アシュケナージ指揮N響、小林研一郎指揮日本フィル等で再演されている。

2005年、社会貢献を目的としたオーケストラ「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立、以来全国にて活動を続けている。

CD、DVDはオクタヴィア・レコードより多数リリース。著書に『指揮者のひとりごと』(日本図書協会選定図書)等がある。

現在、日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団・名古屋フィルハーモニー交響楽団・群馬交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団特別客演指揮者、九州交響楽団名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、ロームミュージックファンデーション評議員等を務める。

Ken-ichiro Kobayashi,
Conductor





プラハ交響楽団

Prague Symphony Orchestra

1934年、指揮者のルドルフ・ペカーレクによって創立。活動分野を「フィルム」「オペラ」「コンサート」と定め、その頭文字を並べたFOKは同楽団の名称の一部となった。創立以来、ヴァーツラフ・スメターチェクが主に中心となり、1930年代にチェコで制作された映画の大多数の音楽録音を担当した他、チェコスロヴァキア放送の生放送に定期的に出演することで名を広め、定期公演の数も次第に増加していった。そのように、短期間のうちに同楽団を国内の熾烈な競争に十分に耐えうる大規模な交響楽団に発展させることに成功した。

スメターチェクは1942年には首席指揮者に就任し、その後30年間にわたって同楽団を率いた。彼のリーダーシップのもと、FOK交響楽団は高い演奏水準を誇り、国際的な名声を得るオーケストラとなる。

1952年、プラハ市より市を代表するオーケストラという地位を与えられ、「首都プラハの交響楽団 FOK」となった。1957年にはポーランド、イタリア、オーストリア、ドイツへの初の国外ツアーを行うことによって国際舞台に踊り出た。スメターチェクが退いた後、首席指揮者はラディスラフ・スロヴァーク(1972-76)、インドルジヒ・ローハン(1976-77)、イルジー・ピエロフラーヴェク(1977-89)、ペトル・アルトリヒテル(1990-92)、マルティン・トゥルノフスキー(1992-95)、ガエターノ・デローク(1995-98)、セルジュ・ボド(2001-06)、イルジー・コウト(2006-15)、ピエタリ・インキネン(2015-20)が務めてきて、2020年9月からはトマーシュ・ブラウネルが首席指揮者となっている。この他、同楽団と共演する機会の多かった主なチェコの指揮者としては、ヴァーツラフ・ノイマン、ズデニェク・コシュラー、ヴラディーミル・ヴァーレクなどが挙げられる。

プラハ交響楽団はその歴史の中で、多くの世界的名指揮者を客演指揮者として迎えただけでなく、多彩なソリストたちとも共演している。同楽団は、ヨーロッパのほぼ全ての国で演奏を重ねている他、日本と米国では頻繁に演奏しており、その他にも南米、プエルトリコ、台湾、韓国、トルコ、イスラエル、オマーンなどの国々を訪れている。

さらに、チェコおよび世界中の作品をレパートリーとしたCD、ラジオ、テレビへの多様な録音作品にてその実力が物語っている。録音のほとんどはスプラフォン・レーベルで行っているが、他にもBMG、コニファー、フィリップス、エラート、ユニバーサル、ハルモニア・ムンディ(プラガ)、ビクター、コッホ・インターナショナル、パントン、ミュージック・ヴァルスといった各レーベルでの録音がある。

Prague
Symphony
Orchestra



PRAGUE SYMPHONY ORCHESTRA – Japan 2024

CHIEF CONDUCTOR

Tomáš Brauner

1st VIOLIN

Rita Čepurčenko [concertmaster]
Roman Patočka [concertmaster]
Hiroko Takahashi [deputy concertmaster]
Pavel Šafařík [deputy concertmaster]
Adéla Vondráčková [deputy concertmaster]
Jiří Hurník
Maria Ericsson Vlach
František Kosina
Světлана Pechoušková
Matěj Vlk
Monika Urbanová
Radim Šisler
Filip Šilar
Jan Mráček
Helena Jiříková

2nd VIOLIN

Jakub Marek
Costin Angheliescu
Zdeněk Jiroušek
Miloš Havlík
Vlasta Beranová
Nila Fleissigová
Vladislava Hořovská
Marie Jirová
Vladimír Kučera
Miluše Skoumalová
Jiljí Teringer
Petr Typolt

VIOLA

Jan Nykrýn
Tomáš Duda
Alan Melkus
Zuzana Peřinová
Vladan Malinjak
Vladimír Zajačik
Tomáš Krejbich
Jan Forest
Pavčina Křováčková
Daniel Macho

CELLO

Miloš Jahoda [concertmaster]
Jan Chuchro
Jaroslav Matějka
Petr Malíšek
Petra Malíšková
Věra Anýžová
Richard Žemlička
Václav Fleissig

DOUBLE BASS

Martin Zelenka
Jan Vokoun
Lukáš Verner
Jan Buble
Václav Hoskovec
David Fendrych
Vojtěch Marada

FLUTE

Jiří Skuhra
Anna Taláčková
Martin Klimánek
Petra Hoďánková

OBOE

Liběna Séquardtová [concertmaster]
Jurij Likin
Radim Kocina
Jan Hoďánek

CLARINET

Matouš Kopáček
Libor Suchý
Vlastimil Mareš
Miroslav Plechatý

BASSOON

Václav Fůrbach
Petr Sedlák
Jaroslav Jedlička
Štěpán Rímský

HORN

Zuzana Rzounková
Martin Sokol
Petr Hernych
Tomáš Kirschner
Eva Krajanzlová
Hana Šuková

TRUMPET

Lubomír Kovařík
Daniel Tarrant
Jakub Doležal
Miroslav Fejfar

TROMBONE

Kurt Neubauer
Radim Gala
Tomáš Bialko
Jakub Pavluš
Miriam Wallich

TUBA

Petr Salajka

PERCUSSION

Lubor Krása
Svatopluk Čech
Junko Honda
Antonín Procházka

HARP

Hana Müllerová
Mariana Jouzová



ともはる
牛田 智大 (ピアノ)

Tomoharu Ushida, Piano

2018年11月に開催された第10回浜松国際ピアノコンクールにて、日本人歴代最高第2位、併せてワルシャワ市長賞、聴衆賞を受賞。2019年3月、第29回出光音楽賞受賞。

1999年福島県いわき市生まれ。父親の転勤に伴い生後すぐ上海へ渡り、6歳まで育つ。

2012年2月(12歳)、第16回浜松国際ピアノアカデミー・コンクールにて最年少1位受賞。以降、本格的に演奏活動始める。

2012年3月、クラシックの日本人ピアニストとして最年少(12歳)でユニバーサル ミュージックよりCDデビュー。「愛の夢〜牛田智大デビュー」(2012年)、「想い出」(2012年)、「献呈〜リスト&ショパン名曲集」(2013年)、「トロイメライ〜ロマンティック・ピアノ名曲集」(2014年)、「愛の喜び」(2015年)、「展覧会の絵」(2016年)、「ショパン:バラード第1番、24の前奏曲」(2019年)、「ショパン・リサイタル2022」(2022年)をリリースし、2015年リリースの「愛の喜び」以降、続けてレコード芸術誌の特選盤に選ばれている。

これまでに、国内の著名な指揮者およびオーケストラと多数共演を重ねた他、シュテファン・ヴラダー指揮ウィーン室内管弦楽団(2014年)、ミハイル・プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管弦楽団(2015年/2018年)、小林研一郎指揮ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団(2016年)、ヤツェク・カスプシク指揮ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団(2018年)の各日本公演のソリストを務めるなど、全国各地の演奏会で活躍。その音楽性を高く評価され、2019年5月にはミハイル・プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管弦楽団のロシア公演や、8月にワルシャワ、10月にはブリュッセルでのリサイタルに招かれた。

これまでに、NHK総合テレビ「プロフェッショナル 仕事の流儀」他、様々な番組や媒体でその活動が紹介されている。

2019年に20歳を迎え、これを記念し2020年8月31日に東京・サントリーホールでソロ・リサイタルを行い、大成功を収めた。また2022年3月、デビュー10周年を迎え開催した記念リサイタルは各地で好評を博すなど、人気実力ともに若手を代表するピアニストの一人として注目を集めている。

Tomoharu Ushida,
Piano



岡本 侑也 (チェロ)

Yuya Okamoto, Cello

2017年エリザベート王妃国際音楽コンクールのチェロ部門第2位・イザイ賞、2011年第80回日本音楽コンクールチェロ部門第1位・併せて岩谷賞(聴衆賞)を含む4つの特別賞を受賞。第25回新日鉄住金音楽賞フレッシュアーティスト賞、第16回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第28回出光音楽賞、第20回ホテルオークラ音楽賞受賞。

リサイタルや室内楽での出演に加え、尾高忠明、小林研一郎、高関健、下野竜也、梅田俊明、ユベール・スターン、オーギュスタン・デュメイ、ステファヌ・ドゥネーヴ等の指揮者、また、ワディム・レーピンなどの世界で活躍するソリスト、国内外のオーケストラとの共演を重ねている他、テレビなどにも出演し、世界の第一線で活躍中の1994年生まれのチェリスト。

2023年4月にはウィーン、パリ、ルツェルンなど欧州7都市で、2019年にイタリアと日本、2021年にスイスとモナコで共演し、大成功を収めたピアニストのクリスチャン・ツィメルマンとブラームスのピアノ四重奏曲で三度目の共演を果たし、「エレガントなフレージングと輝きを放つチェリスト」と最大級の賛辞を贈られた。また、2023年7月からエベヌ弦楽四重奏団のゲスト・チェリストに招かれ、ベルリン、ウィーン、アテネ、ジュネーブ、ストックホルムなど約20公演で共演している。「彼の演奏はとても魅力的で優しく、それでいて存在感があり、まるでこの世のものではないかのようなだった」と評されている。

H=J.ゼーフルート、山崎伸子、ウェン=シン・ヤン、ユリアン・シュテッケル、アナ・チュマチェンコ、ハリオルフ・シュリヒティヒの各氏に師事。ヴォルフガング・ベッチャー、マイクロシュ・ペレーニ、ナターリア・グートマン、グスタフ・リヴィニウス、イェンス=ペーター・マインツ、堤剛各氏のマスタークラスを受講。ドイツ・ミュンヘン音楽・演劇大学を首席で卒業。同大学院ソロ科も首席で修了し、現在も同院で研鑽を積みながら演奏活動を展開している。

高崎芸術劇場T-Shotシリーズ「岡本侑也 IN CONCERT」のCDをオクタヴィア・レコードから発売。(公財)江副記念リクルート財団第42回奨学生、(公財)ローム音楽財団2013年度・2014年度奨学生、(公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団 2022年度海外音楽研修生。

Yuya Okamoto,
Cello



寺西 基之(音楽評論家) Motoyuki Teranishi

ドヴォルザーク：「伝説」より第3曲 Op.59-3

ボヘミア民族主義の作曲家ドヴォルザーク(1841-1904)の「伝説」は10曲からなる曲集で、1880年末から81年春にかけてピアノ連弾用に書かれた後、81年秋に彼自身の手で管弦楽用に編曲された。彼の有名な「スラヴ舞曲集」に通じる性格を持った曲集だが、「伝説」という題に現れているように、より叙事詩的な性格を持った魅力的な作品である。今回取り上げられる第3番(アレグロ・ジュスト)は舞曲風の主部と詩的で優美な中間部からなっている。

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op.18

名ピアニストでもあったロシアの作曲家ラフマニノフ(1873-1943)はロシア的特質とピアノの名技性を併せ持つピアノ曲を数多く残したが、中でもこの協奏曲第2番は最も人気が高い。完成は1901年だが、作曲時の彼はスランプにあり、精神科医ダーリ博士の療法を受けて回復したというエピソードはよく知られている。

第1楽章(モデラート)はロシアの鐘の響きを思わせるピアノ独奏の重い和音で開始され、暗い情熱に満ちた発展が繰り返される。**第2楽章(アダージョ・ソステヌート)**は甘美な情感に満ちた緩徐楽章。中間部は動きを速める。**第3楽章(アレグロ・スケルツァンド)**では力感に満ちた主要主題と息長く歌われる副主題がドラマティックな展開を織り成す。

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 ロ短調 Op.104

ドヴォルザークは晩年の一時期、母国ボヘミアを離れてニューヨークの音楽院の院長を務めた。この時期の作品には母国への望郷の念が滲み出たものが多く、1895年完成のこのチェロ協奏曲は特にそうした感情が色濃い。豊かなスケール感のうちにチェロと管弦楽の表現力をフルに発揮させた大作で、古今のチェロ協奏曲の最高峰といえる傑作である。

第1楽章(アレグロ)は壮大な協奏的ソナタ形式で、悲愴感を湛えた第1主題と5音音階によるノスタルジックな第2主題を持つ。**第2楽章(アダージョ・マ・ノン・トロppo)**は憧憬と孤独な思いが現れ出た叙情的な緩徐楽章。**第3楽章(アレグロ・モデラート)**は民俗的な主題を中心に技巧的なチェロと雄弁な管弦楽が劇的な発展を繰り返すフィナーレである。

ドヴォルザーク：交響曲第9番 ホ短調 Op.95「新世界より」

ドヴォルザークの作品中最もポピュラーなこの交響曲は、彼がニューヨークの音楽院の院長を務めていた1893年に書かれたもので、愛する母国ボヘミアへの郷愁の思いが現れた作品である。幾つかの主題などに黒人霊歌などアメリカ音楽からの影響が窺え、アメリカの詩人ロングフェローの

叙事詩「ハイアワサ」との関連も指摘されているが、そうした面ですら母国への想いに重ね合わせるかのように、全体がボヘミアの民族性を感じさせる作品となっている。

第1楽章(アダージョ・アレグロ・モルト)は緊迫感をはらんだ序奏に、起伏に富んだソナタ形式の主部が続く。主部の第1主題は続く全ての楽章でも回想される。**第2楽章(ラルゴ)**は郷愁感溢れる叙情的な緩徐楽章で、イングリッシュホルンの吹く主題はおなじみのもの。**第3楽章(スケルツォ、モルト・ヴィヴァーチェ)**は民俗舞曲風のスケルツォ。**第4楽章(アレグロ・コン・フォオーコ)**は激しい感情と憧憬の間を揺れ動きながら発展するソナタ形式の劇的なフィナーレである。

スメタナ：連作交響詩「わが祖国」

ドヴォルザークに先駆けてボヘミアの民族主義的な芸術音楽の道を拓いたスメタナ(1824-84)はその晩年、聴力を失うという悲劇に見舞われたが、創作力は衰えることなく民族主義的な傑作を生み続けた。代表作である全6曲の交響詩『わが祖国』(1874-79年)もそうした晩年の所産で、ボヘミアの自然や歴史を描出した愛国的な作品である。

1.「**ヴィシェフラド**」 題は直訳では“高い城”だが、ヴルタヴァ河畔の岩上の城を指す固有名詞で、伝説の建国の女王リブシェがここで国の未来を予言し、伝説の王たちの居城となったという民族精神の源泉というべき城である。吟遊詩人ルミールが竖琴(ハーブ)をかき鳴らしつつ城の栄枯盛衰の歴史を語るという内容の曲で、冒頭現れるヴィシェフラド主題が中心となる。

2.「**ヴルタヴァ(モルダウ)**」 ボヘミアを流れるヴルタヴァ河(ドイツ名ではモルダウ)を、水源からプラハに流れ込むまでの道程に沿って描いた曲。2つの水源(フルートとクラリネット)の描写に始まり、それが合流し徐々に大きくなる様子、狩や農民舞踏、夜の情景などが描かれた後、激しい急流が国の苛酷な歴史と二重写しになって表現され、最後は河がプラハに入ってヴィシェフラドの脇を通っていく様が第1曲の主題を用いて雄大に描写される。

3.「**シャールカ**」 男を憎悪する女傑シャールカの伝説の物語をリアルに描いた劇的な曲。兵士一行を率いる勇士に助けられたシャールカだが、宴会で彼女は兵士らを酔わせて眠らせ、角笛の合図(ホルン)とともに女戦士たちに彼らを襲わせて皆殺しにする。

4.「**ボヘミアの森と草原から**」 ボヘミアの深い森と広い草原、そこに吹き渡る風、差し込む木漏れ日、小鳥の歌、村人の生活と踊り(ポルカ)などを表現した自然賛歌。

5.「**ターボル**」 ターボルは15世紀に宗教改革をめざすフス団が建設し本拠とした町。冒頭示されるフス団の革命歌的な賛美歌「汝ら神の戦士」を主要主題にしつつ、彼らの不屈の精神と戦いを描く。

6.「**ブラニーク**」 前曲「ターボル」の続編で、前曲と同じ賛美歌主題が使用される。ブラニークは伝説では民族を守る英雄とその指導者の聖ヴァーツラフが眠るといわれる山の名だが、スメタナは敗れたフス戦士が国を救う時が来るのを待ちつつ眠る場所としてブラニークを扱った。重々しい賛美歌主題に始まり、戦士の覚醒と進軍、牧歌的な田園の描写の後、激しい戦闘が描かれる。やがて明るい行進曲調の新主題(やはり賛美歌による)が現れて勝利を表し、最後は第1曲のヴィシェフラド主題も重ね合わされて輝かしい終結に至る。